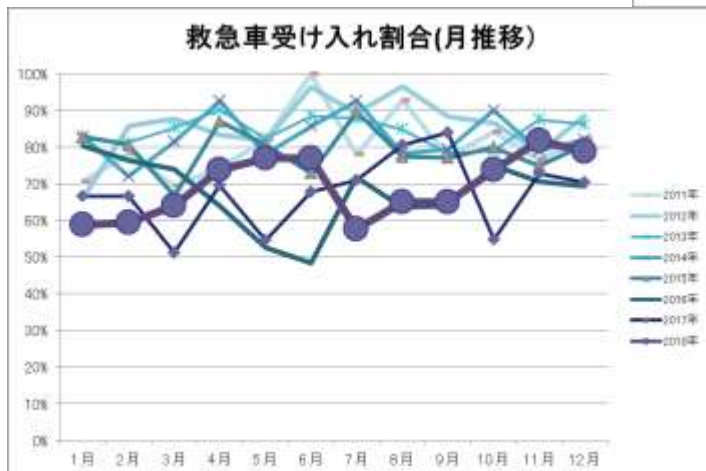




2014年10月の回復期リハ病棟開設以降、一般急性期病棟半減により受入可能な病床数が大幅に減少しましたが、「地域からの要請を断らない」を合い言葉に積極的受入に取り組んできました。しかし満床や個室部屋満室の為、断ざるえない場合があります。

本年は2015年以降から2017年にかけて、減少し続けていた受入割合が並行推移に変



わりました。

月の受け入れ割合推移をみると、2015年以降、病棟の満床状況によって救急車受け入れ割合が月によって乱高下しており、本年も1～3月、7～9月が低下しました。

ただし、受入件数でみると乱高下していた件数が一定件数に落ち着きつつあり、受入割合の変化は、近隣病院との関係や救急車利用者件数の増減によって変化している可能性があります。

受け入れ態勢の強化の為当院では、院内の全職員がリアルタイムに病棟内救急受け入れ病床数を把握できるように、電子カルテ TOP 画面に表示し、変更時には毎回全職員に通知しています。

更に毎週のベッドコントロール会議の開催、退院困難事例検討会の実施。病棟看護師による毎日昼カンファレンスでの介入必要患者の

抽出による入院早期退院調整、カンファレンスの早期実施等の対策を行っています。

地域の救急要請に答える為に、今後も取組を進めていきます。

救急受入割合や要請件数が減少しているもう一つの要因として、在宅の抱え患者に対して、在宅医療チームでの対応が充実した事により、当法人内在宅管理患者の救急依存度が低下している可能性があります。

当法人在宅管理患者の在宅看取り件数推移をみると、2017年以降の件数が大幅に増加し、2018年は更に増加していました。在宅で終末期を迎える体制が強化されている事が考えられます。

